

産学連携と事業創造		城戸 宏史		
------------------	--	--------------	--	--

配当年次	2年次	配当学期	2学期	科目区分	エグゼクティブ
単位数	2単位	必修・選択	選択	授業形態	講義

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Course Completion), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	理論知識	
	実践知識	○ 事業創造に向けた産学連携にとって必要な実践的な知識を習得する。
技能	分析解決技能	
	実務技能	
	新規事業技能	○ 事業創造に向けた産学連携のコラボレーションの仕組みを具体的に提案できる。
態度	倫理観態度	
	企業変革態度	○ 企業変革を促す産学連携のコラボレーションの具体的な企画を提案できる。
	地域リーダー態度	○ 様々な地域の資源を生かした産学連携のスキームを提案できる。
	国際協調態度	

※ ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

※ 2013年度以降入学生が対象です。

産学連携と事業創造

授業の概要

知識社会へのシフトによって、わが国では1990年代後半から大学や研究機関等の知的インフラの成果をいかに効果的にビジネスに結びつけるかが重要課題となっている。そのため、行政はこの10～20年ほど積極的に科学政策や産業政策を展開させて「産学連携」を押し進めている。しかしながら、その現場では各担い手の認識の不足やお互いのコミュニケーション不足によって多大な困難が生じており、順調に成果があがっているわけではない。よって、本講義では産学連携による新事業開発に焦点をあて、成果をあげるためのマネジメントについて事例を踏まえながら考察する。また、産学連携の成果の1つである知財の戦略については、⑥～⑦において弁護士知財ネット九州・沖縄地域会から講師を招聘し、講義を実施する。

なお、本講義の到達目標は、①知財を意識した産学連携のスキームをプランニングできる、②将来性があり現実的な産学連携プロジェクトのテーマを探索できる、③有機的かつ実践的なチーム体制を提案できる、である。

教科書

適宜、資料やレポート等をプリントにて配布

参考書

(○は図書館蔵書)

- 馬場靖憲／後藤晃『産学連携の実証研究』東京大学出版、玉井克哉
宮田由紀夫『日本の産学連携』玉川大学出版部
二神恭一／日置弘一郎『クラスター組織の経営学』中央経済社
- クレイトン・クリステンセン／ジェフリー・ダイアー／ハル・グレガーセン『イノベーションのDNA』翔泳社
玉田俊平太『日本のイノベーションのジレンマ』翔泳社
伊丹浩敬之『経営戦略の論理』日本経済新聞出版社
マイケル・E・ポーター『競争戦略Ⅱ』ダイヤモンド社

授業計画・内容

- ①産学連携のバックグラウンド
【わが国の産学連携の背景と政策の展開：科学政策、地域政策、クラスター政策、産学連携政策、デスバレー】
- ②、③イノベーションとクラスター政策の実態
【イノベーション政策としてのクラスター政策：技術革新、ビジネス革新、事業革新、競争優位戦略、クラスター理論】
【クラスターマネジャーとしてのインプリケーション：コラボレーション、チームワーク、研究会運営、リーダーシップ】
- ④、⑤中小企業による産学連携の落とし穴
【中小企業A社に係るケースによるディスカッション：人間関係、チームマネジメント、秘密保持契約、情報漏えい】
【中小企業A社から得る教訓とA社のその後：知財戦略、プロジェクトマネジメント、技術蓄積】

- ⑥、⑦新事業開発と知的財産権戦略・戦術（弁護士知財ネット九州・沖縄地域会からゲスト講師を招聘）
 【知的財産の基礎：特許権、商標権、知的財産権】
 【知的財産戦略と戦術～ワークショップ設例解説～：秘密保持契約、基本契約、共同開発契約、職務発明規定】
- ⑧、⑨地方における産学連携プロジェクトの成功例と失敗例
 【F社の紆余曲折に学ぶケースによるディスカッション：業界を超えたチームマネジメント、異業種交流、商品開発】
 【U教授とS社の事例：チームワーク、フォーメーション、企業風土、新規事業創造、ユーザー志向、デスバレー】
- ⑩、⑪産学連携プロジェクトのプロデュースのポイントと実例
 【イノベーションのためのスキルと人材：ネットワーク力、関連づけ思考、技術者、質問力、観察力、産業政策】
 【産学連携プロジェクト創出の実態：（仮称）植物工場プロジェクト、（仮称）アロマプロジェクト、（仮称）竹プロジェクト】
- ⑫、⑬技術系人材から見た産学連携の真実（ゲスト招聘の予定）
 ⑭、⑮産学連携プロジェクトの提案（プレゼンテーション）

成績評価の方法	ケーススタディに対する課題およびディスカッション（60%） 産学連携プロジェクトプラン（20%） その他の日常的なディスカッションに係わる貢献度（20%）
事前・事後学習の内容	事前学習としては、イノベーションや商品開発（事業創造）に対する基礎的な知識を習得・確認していることを期待しています。また、ポーターのクラスター論、クリステンセンのイノベーション論の習得をお薦めします。 事後学習については、講義に活用した資料や参考資料を活用して講義の確認をしてください。
履修上の注意	知的財産権に関連する講義を2コマ実施しますが、特に法律的な知識は求めません。
担当者からのメッセージ	産学連携や知的財産など一般的にはとっつきにくいテーマを扱いますが、できる限りわかりやすく講義を行いますので気軽に受講してください。
キーワード	コラボレーション、イノベーション、知的財産権、産学連携、チームマネジメント、デスバレー、クラスター政策、テーマ探索